

和十八年七月一日

大和民族を中核とする世界政策の検討

―特に民族人口政策を中心として―

（第二分冊）

厚生省研究所人口民族部

序

本輯「大和民族を中核とする世界政策の検討」は曩に假印刷に附せし「戰爭の人口に及ぼす影響」の續篇として「厚生省研究所人口民族部」において特に民族人口政策の見地より編纂せるものなり。

第一篇より第七篇に亘る本輯は製本の都合上之を左の如く三分冊とす。

第一分冊
- 第一篇　總説
- 第二篇　大東亜民族事情
- 第三篇　世界各國の民族事情

第二分冊
- 第四篇　自然環境と民族の關係
- 第五篇　民族的世界觀と國家觀

第三分冊
- 第六篇　大和民族を中核とする世界政策
- 第七篇　大東亜建設計畫

資料入手其の他の困難を超えて特に怱々の間に取纏めたるものにして行間統一を缺きたるの恐れ無きにしもあらざれども右の廣汎なる夫々の問

厚生省研究所人口民族部調

「大和民族を中核とする世界政策の検討」

（特に民族人口政策を中心として）

第二分冊

目次

題に對し一應の集成に達し此處に取敢へず假印刷に附し以て部内の參考に資するものなり。

昭和十八年七月一日

厚生省研究所人口民族部

第三編

第一章　蘇聯民族事情

第一節　概説

ソヴェート社会主義共和國聯邦を構成する主要民族は、周知の如く印度ゲルマン人種（アリアン人種）に族するスラブ民族であり、其の所謂「東スラブ」族と称せらるゝものである。それは聯邦総人口の約七八割を占むるものであるが、其外にアリアン系古代アジア系及蒙古系の人種民族を無数に内包し、其の種別は大小二百種に垂んとしてゐる。

正に民族博物館の名に恥ぢず、其の民族的構成の複雑なることは世界無比である。而して斯くの如く他に比類のない多数の異民族を内包してゐるロシヤは、帝政時代永らく此等を無知と沈滞、相互の怨恨と反噬と